

平成 30 年 5 月 24 日現在

機関番号：33910

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K04156

研究課題名(和文) 経済的困窮世帯の子どもが抱える問題と包括的支援システムに関する実証的研究

研究課題名(英文) The Characteristics of Children from Impoverished Households and the Comprehensive Support System

研究代表者

吉住 隆弘 (YOSHIKUNI, Takahiro)

中部大学・人文学部・准教授

研究者番号：60535102

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：生活困窮世帯の子どもが抱える問題、支援の現状と課題、そしてフィンランドにおける子ども支援の現状を調査した。子どもが抱える心理社会的問題に関しては、QOLに特に問題が見られないものの、生活・学習習慣の問題や、先生からのサポートが不足していることが分かった。学校での支援においては、中学校では専門機関との連携がみられる一方で保護者との関わりに課題を抱えていた。福祉行政機関においては、生活困窮世帯の把握や選別に課題があることが分かった。フィンランドの子ども支援については、専門職によるチームが可変的に構成され、相互に協力しながら子どもの支援を行っていた。

研究成果の概要(英文)：The characteristics of children from impoverished households, the comprehensive support system to the children, and child care in Finland were examined. The results showed that the children from impoverished households had not formed study and breakfast habits and slept fewer, and perceived support from their teachers as lacking compared to the children from ordinary households although there were no differences in the QOL between the two groups. In regard with the support system the Junior high schools supported the children with being associated with external expert organizations while the teachers had a lot of difficulties on the relationships with the parents. The welfare offices had a difficulty of finding and screening impoverished households. In schools of Finland, the support team for the students were flexibly consisted of variety of specialists and supported the children by collaborating each other.

研究分野：臨床心理学

キーワード：子どもの貧困 生活保護 QOL ソーシャルサポート 福祉行政 チーム学校 フィンランド

1. 研究開始当初の背景

わが国では経済的な困窮で苦しむ世帯が増加し、子どもの相対的貧困率は、2003 年以降漸次増加傾向にあった。子ども期の家庭の貧困は、次世代まで引き継がれる問題であり、子どもの発達に大きな影響をもたらすことが懸念されていた。国は、平成 25 年度に子どもの貧困対策の推進に関する法律を定め、国全体として子どもの貧困問題に対策すべきとの姿勢を示していた。

このような社会背景の下、子どもの貧困をテーマとした研究が増加傾向にあった。但し、研究テーマとしては、社会政策等、マクロレベルの研究が多く、子どもを中心とした微視的視点および力動的視点に着目した研究は少なかった。とりわけ他者との関係性や自尊心といった心理学的側面の影響を考慮に入れた研究は皆無であった。また支援に関しては、様々な要因が複雑に絡み合った貧困問題の特徴ゆえ、個別支援だけでなく、子どもとその家族、学校、行政機関、そして地域全体を視野に入れた研究が必要とされていた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、生活困窮世帯の子どもが抱える問題とその包括的な支援システムについて、複合的側面かつ多層的観点から検討を行うことであった。具体的には、(1) 家庭の経済的問題が子どもに与える心理社会的影響を明らかにする、(2) 学校、福祉行政機関、そして NPO 等、子どもを取り巻く多層な環境システムに着目し、支援の現状と課題を明らかにすること、(3) 福祉先進国であるフィンランドを対象に、マイリナリティに対する支援のあり方を調査することであった。

3. 研究の方法

(1) 家庭の経済的問題が子どもに与える心理社会的影響について

生活困窮世帯の中学生 132 名と一般世帯の中学生 256 名を対象に、生活・学習環境に関する質問項目、QOL に関する質問項目、ソーシャルサポートに関する質問項目から構成されるアンケート調査を実施した。

(2) 子どもを取り巻く多層な環境システムについて

学校の先生への調査

公立小学校、中学校、高校に勤務する教員 163 名に対し、生活困窮世帯の子どもが抱える問題、保護者が抱える問題、学校で行っている支援、そして学校での支援における課題についてアンケート調査を実施した。

福祉事務所への調査

愛知県内で、生活困窮者自立支援法に基づく学習支援を実施する福祉事務所に対し、制度上の課題および学習支援の課題についてのアンケート調査を実施した。

NPO への調査

愛知県内とその周辺地域で、経済的困窮世帯

帯の子どもたちの支援活動をしてきた非営利団体 (NPO) もしくは、民間支援団体五箇所に対し、聞き取り調査を実施した。具体的には支援内容、参加者数、スタッフ体制、家庭・学校・行政機関との連携、課題などを尋ねた。

保育所への調査

名古屋市内の公立保育園 4 箇所、私立保育園 1 箇所を巡回・視察し、園長先生および主任保育士に対し聞き取り調査を行った。

(3) フィンランドにおけるマイリナリティに対する支援について

フィンランドの小学校、中学校、教育行政局、ネウボラ、福祉事務所、研究者へのヒアリング調査を行った。

4. 研究成果

(1) 家庭の経済的問題が子どもに与える心理社会的影響について

生活・学習環境については、生活困窮世帯の中学生は、一般世帯の中学生と比べて、学習や朝食の習慣が定着しておらず、睡眠時間が少なかった。QOL については、生活困窮世帯と一般世帯で顕著な差は見られなかった。ソーシャルサポートについては、親サポート、友だちサポートに差はなかったが、生活困窮世帯の中学生は一般世帯の中学生と比較して先生サポートが少なかった (図 1)。

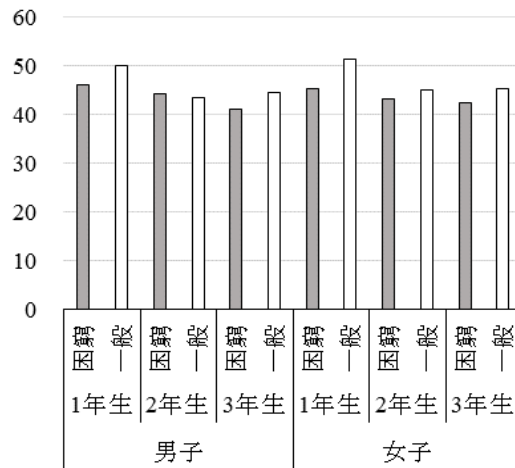


図 1 先生サポートの比較

(2) 子どもを取り巻く多層な環境システムについて

学校の先生への調査

小学校教員は高校教員と比較して、子どもの学習面と生活習慣、および保護者の養育の問題と心理社会的問題をより強く認知しており、高校の教員は、小学校、中学校の教員と比較すると、生活困窮世帯の子どもおよび保護者が抱える問題の認知の程度が全般的に低い傾向がみられた。次に支援経験については、小学校教員で支援経験の割合が他所属の教員と比較して高かったのは「個別学習指導」「学習用具の貸し出し」「衣食住の世話」を多く実施していた。中学校教員と高校教員

で支援経験の割合が高かったのは、「進学や就職のアドバイス」「奨学金の情報」であった。そして中学教員でのみ支援経験の割合が高かったのは、「生活保護や就学援助の手続き」「スクール・カウンセラーに相談」「スクール・ソーシャルワーカーに相談」「児童相談所に相談」「区役所や福祉事務所に相談」であった。支援の課題としては、保護者と関連する「保護者の支援への抵抗・拒否」「保護者との関係構築の難しさ」が多くあげられた。

福祉事務所への調査

2015年と2016年の調査を比較したところ、福祉事務所設置自治体での学習支援実施率は向上していた。しかし、地域の支援能力や事業費、受け入れ対象について自治体間の格差があり、生活困窮世帯の子どもを対象者の把握・選別について行政関係者が苦心していることが引き続き明らかとなった。

NPOへの調査

調査した団体間で共通する大きな課題としては、学習支援サポーターの不足、受け皿（受託機関）の欠如および継続性、教育委員会（学校）・行政（役所）・NPO間の連携、効果に関する評価の在り方や進学後の追跡調査についてであった。その他、被支援者となる子どものコーディネート方法や財源の問題も多くあげられた。

保育所への調査

保育園の所在場所によって、貧困世帯から来る園児の数に地域差があり、園児が呈する問題行動の質にも違いがみられた。行政機関との連携については、多くの保育園が必要と考えていたが、具体的な連携の方法については課題があると答える保育園が多かった。

(3) フィンランドにおけるマイリナリティに対する支援について

ネウボラについては、子どもの家庭環境や健康状態、支援の必要性などについて、出産前から出産後、就学前、小学校入学後と関連機関の間で情報共有がなされている実態が明らかにされた。小学校においては、スクール・ソーシャルワーカー、カウンセラー、特別支援員などを配置し、機動的・可変的なチーム構成によって問題対応がなされていた。中学校については、チーム支援の構造は緩く、柔軟にメンバーが決まる形で運営していた。但し支援される生徒自身がチームの構成員を決定するといった、子どもを主体とした支援が行われていた。福祉事務所については、教育局と福祉局が部署横断的にワンユニットで組織されており、サイコロジスト、SSW、保健師、ソーシャルワーカー、そしてファミリーワーカーが協働して支援を行っているのが特徴的であった。さらに学校心理学の研究者については、2014年に新に施行された児童生徒福祉法とチーム支援について尋ねた。その結果、中等教育にも福祉職を置くことは評価されるが、

基礎教育法には福祉に関する記述が無い点は課題であるとの指摘があった。心理的な関わりは、日常の学校コミュニティの一部であるべきであり、教育と福祉が分けて法律に記述されることで、生徒を福祉の枠に押し込むことにはなるのではないかということであった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計7件)

吉住隆弘 生活困窮世帯の子どもを対象とした学習支援の役割：参加した動機、参加後の変化、支援者との会話内容を通じた検討 人文学部研究論集（印刷中）2018年 査読無

川口洋誉 「子どもの権利条約」が生きる楽しい学校を 教育,867,35-47,2018年 査読無

大矢義実 フィンランドの心理・福祉職が働く現場：学校とネウボラを中心に 愛知淑徳大学心理臨床相談室紀要 22,21-33,2018年 査読無

川口洋誉 子どもの貧困にどう向き合うか 生徒とともに 59,8-13,2017年 査読無

川口洋誉 学生と子どもがともに育ち合う学習支援の物語 教育,854,71-74,2017年 査読無

吉住隆弘 生活困窮世帯の子どもにおけるソーシャルサポートとQOLの関連：生活保護世帯の中学生に着目して 発達心理学研究 27,408-417,2016年 査読有

川口洋誉 制度上の課題と行政：支援現場の共同 教育 841,61-66,2016年 査読無

〔学会発表〕(計7件)

吉住隆弘 子どもの貧困問題に関するスクールカウンセラーの認識 第81回日本心理学会 2017年

川口洋誉 自治体における新自由主義的教育政策と「教育福祉」的事業の親和性とその転換 日本教育政策学会第24回大会 2017年

吉住隆弘 貧困が子どもの心理・社会的側面に及ぼす影響について：生活・学習状況、ソーシャルサポート、QOLに着目して 第25回日本パーソナリティ心理学会 2016年

吉住隆弘 生活困窮世帯の中学生のソーシャルサポートとQOLの関連 第35回日

本心理臨床学会 2016 年

川口洋誉 経済的困難を抱える子どもへの学習支援に関する検討：対象者の受け入れ状況に着目して 日本教育政策学会第 23 回大会 2016 年

川口洋誉 経済的困難を抱える子どもへの学習支援に関する検討：私立大学による業務委託のケースをとりあげて 中部教育学会第 65 回大会 2016 年

吉住隆弘 生活困窮世帯の子どもに関する研究—経済状況が子どもの QOL に与える影響と教員の認識について 第 79 回日本心理学会 2015 年

〔図書〕(計 1 件)

川口洋誉 子どもの貧困と学習支援：その意義と限界 稲葉剛ほか著 ここまで進んだ！格差と貧困 新日本出版社 2016 年 pp. 119-132

6. 研究組織

(1) 研究代表者

吉住 隆弘 (YOSHIZUMI, Takahiro)
中部大学・人文学部・准教授
研究者番号：60535102

(2) 研究分担者

川口 洋誉 (KAWAGUCHI, Hirotaka)
愛知工業大学・工学部・准教授
研究者番号：60547983

長谷川 真美 (HASEGAWA, Mami)
愛知医科大学・看護学部・助教
研究者番号：00559148

大矢 義実 (OYA, Yoshimi)
愛知淑徳大学・健康・医療・教育センター・助教
研究者番号：50707669

森下 佳南 (MORISITA, Kana)
愛知淑徳大学・交流文化学部・助教
研究者番号：30735220

(3) 連携研究者

山田 壮志郎 (YAMADA, Soshiro)
日本福祉大学・社会福祉学部・准教授
研究者番号：90387449